



## 「個性」



明けましておめでとうございます。今年もよろしく申し上げます。

洪水のように、

大きく、<sup>はげ</sup>烈しく、

生きなくていい、

清水のように、あの<sup>いわかげ</sup>岩陰の、

人目につかぬ<sup>したた</sup>滴りのように、

清らかに、ひそやかに、自ら<sup>かがや</sup>耀いて、

生きて<sup>もら</sup>貰いたい。

.....

<sup>いのうえやすし</sup>  
(井上靖『愛する人に』)

『氷壁』や『天平の薨』の作家・詩人井上靖は、たぶん、自分の子どもを思い浮かべているのでしょうか、「愛する人に」こんな詩を書いています。激しくなくてもいいし、ひそやかでいい、ただし、自ら輝いて生きてほしいという願いを訴えています。

自ら輝いて生きる……この言葉に作者の願いがこもっているような気がします。自分の個性、そのことに人間の生きる価値を求めていると言っていると思います。

一体、個性とは何でしょうか。その人が持つ、その人だけの価値観、生き方、考え方……そんな風な解釈が成り立ちます。ただ、それは、あくまでその人だけのものであり、他の誰とも似ていないはずのものに違いありません。そこにいろいろなトラブルがあり、ストレスや悩みの原因が生じてくるのではないのでしょうか。

人間それぞれが、自ら輝く個性を持って生まれてきている……このことをしっかり認識した上で、様々な人間関係に対応していけばいいのではないのでしょうか。個性と個性がぶつかり合いを避けて通らず、むしろ、それぞれ違う個性と個性を持った人間が、どうすれば近付き、手を携<sup>たずさ</sup>えることができるか。対立も親和も、<sup>しんわ</sup>友情や恋愛も、違う個性がその違いを意識しつつ、他に近づく努力をして、良い結果につながっていくような気がします。

時々、自分を振り返り、自分の個性を、まるで鏡を見るようにその姿を確認することが、自分をさらなる高みに引き上げてくれるのではないのでしょうか。みなさんが自分の個性と<sup>たいじ</sup>対峙して、しっかり自分を<sup>みが</sup>磨きあげる年にしてほしいと思います。

本年の活躍を祈っています。